

光と影の街

芸術研究科 造形表現専攻
写真・映像領域 博士前期課程
2024年3月修了

張焱偉

主査 百瀬俊哉 副査 大日方欣一 佐藤慈

研究背景

現代社会は最も早いスピードで変化し続け、多くの伝統的な、さらには新しく形成された習慣が瞬く間に捨てられてきた。さまざまな社会的組織や集団が絶えず生まれ、淘汰されている。人々の考えや行動は急速に変化している。

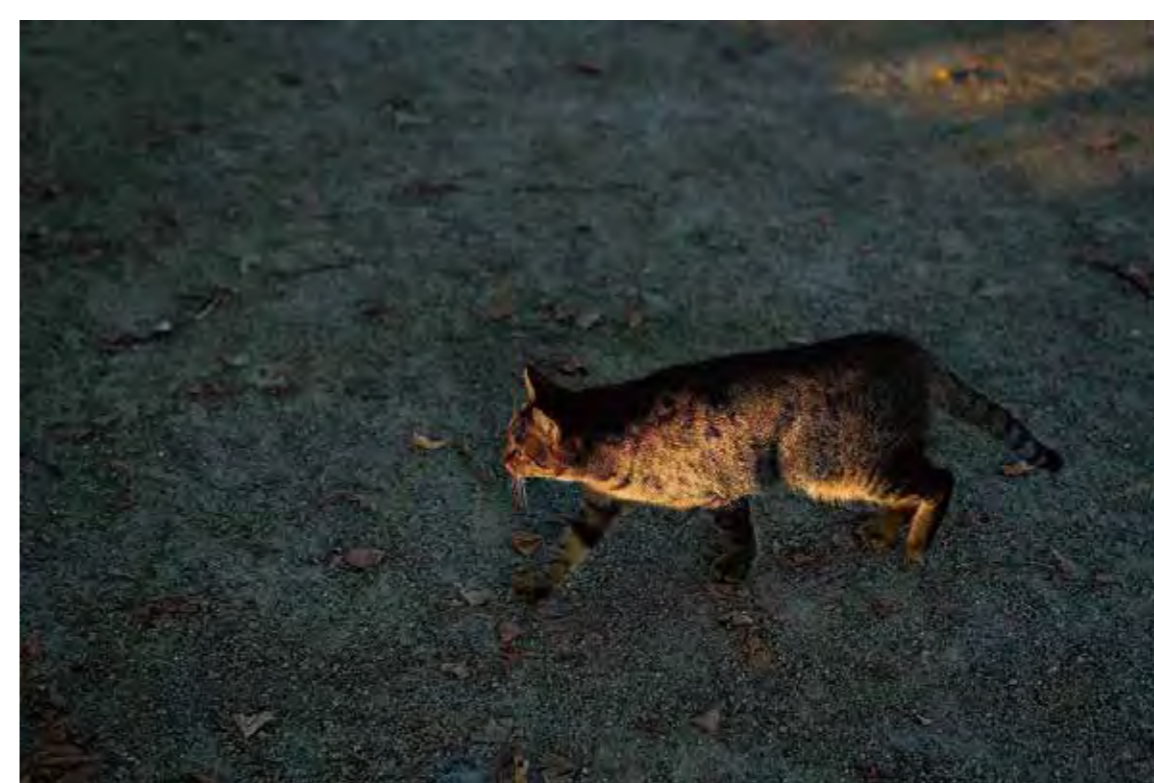
人々は「遅れをとらない」ように必死に変化を追い求め、その結果、過度の心理的緊張を招くことになる。

このような憂鬱な背景の中でも、人々の周りには支えや共感を与えてくれるものがある。それは、暗闇の中で光のように彼らの行く手を照らしてくれる。

研究目的

「光の方へ」とは都市の持つ光と影に眼差しを向け、自身の思いを投影したものだ。一人でいると雑念に囚われてストレスを感じやすいので、晴れた日に家を出て街を散歩するのが好き。街の光が私に暖かさや癒しを与えてくれるように、社会で生きる人々にも力を与えてくれる何かがあるに違いないと感じている。光が私を癒してくれることを発見したように、写真が観る人に安らぎをもたらすことを望んでいる。

研究概要



成果・まとめ

写真を構成する要素は、通常、人々の生活の一部でありながら、見過ごされやすい。しかし、写真を通して、これらのありふれた風景や人々に新たな意味が与えられる。

私が表現したい気持ちを写真を通して観る人に伝えることができた。自分の写真や思いが認められたことに勇気づけられた。作品を通して、自分の考えがより明確に理解でき、新たな方向性が見えた。これからも写真を撮り続け、さらなる表現を追求していきたいと思う。



指導教員コメント

光と影に対する自身の感情的なつながりを踏まえてスナップ写真を制作している。独自の視点による表現で、撮影を通して自分が感じたことを、現在の私たちの街の中から丹念に捉えた作品である。常に瞬間を発見しようとする姿勢と共に、光を丹念に捉えた作品は評価することができる。